



**MITSUBISHI  
MOTORS**

**2021年度  
第2四半期 決算報告**

2021年11月4日

# 1. 2021年度上期 実績

## 2. 2021年度 業績見通し

## 3. ビジネスハイライト

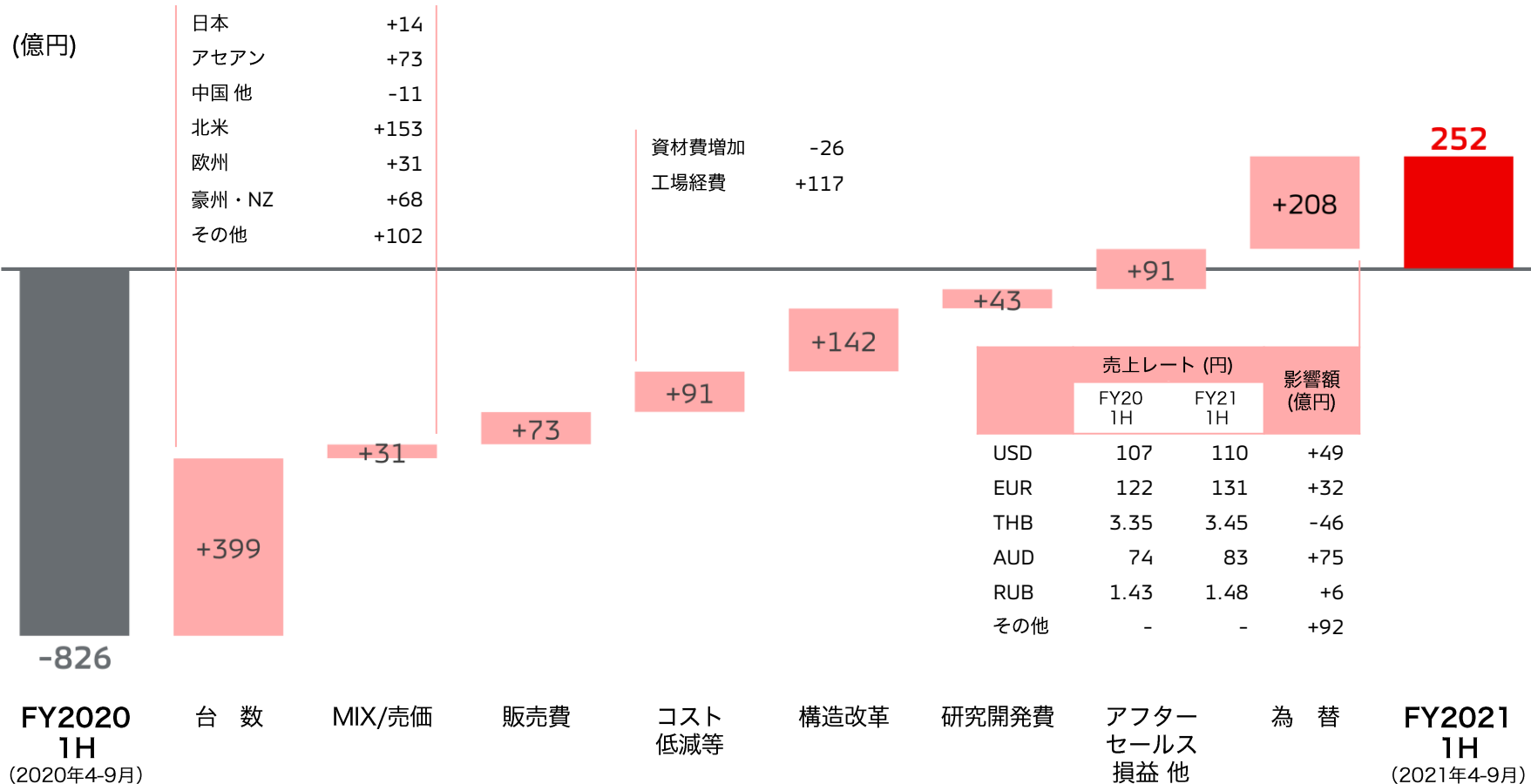
# 2021年度上期 業績サマリー【前年同期比】



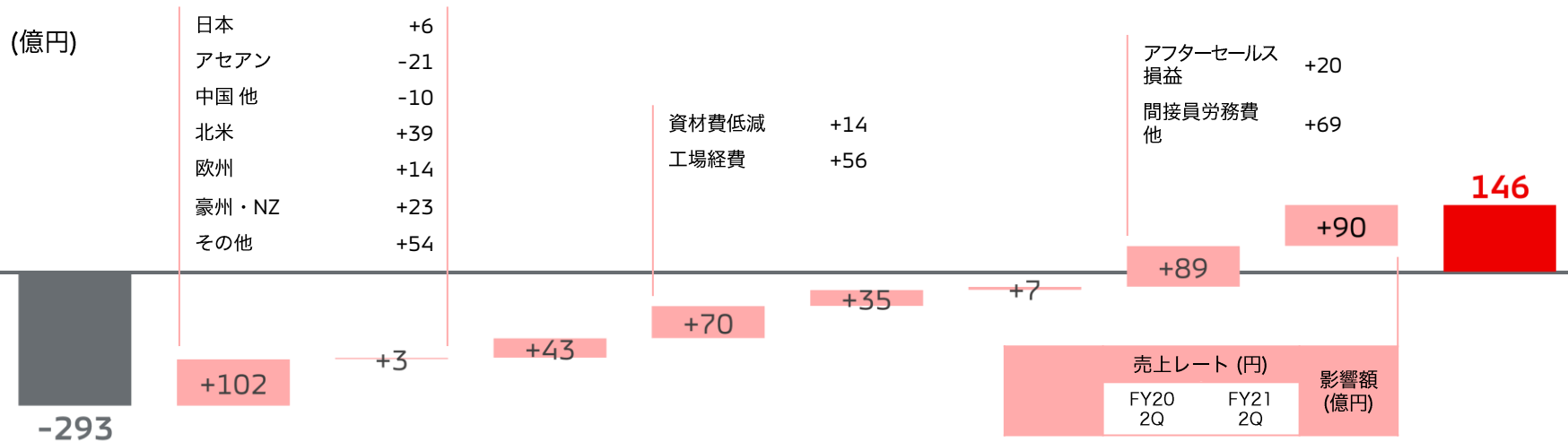
(億円、千台)	上期 (4-9月)				四半期別	
	FY2020	FY2021	増減		1Q	2Q
			差異	率		
売上高	5,749	<b>8,906</b>	+3,157	+55%	4,319	4,587
営業利益 (利益率)	-826	<b>252</b> (2.8%)	+1,078	-	106 (2.5%)	146 (3.2%)
経常利益	-870	<b>271</b>	+1,141	-	112	159
当期純利益*	-2,099	<b>217</b>	+2,316	-	61	156
販売台数 (小売台数)	351	<b>442</b>	+91	+26%	230	212

\* 親会社株主に帰属する当期純利益

# 2021年度上期 営業利益変動要因分析【前年同期比】



# 2021年度第2四半期 営業利益変動要因分析【前年同期比】

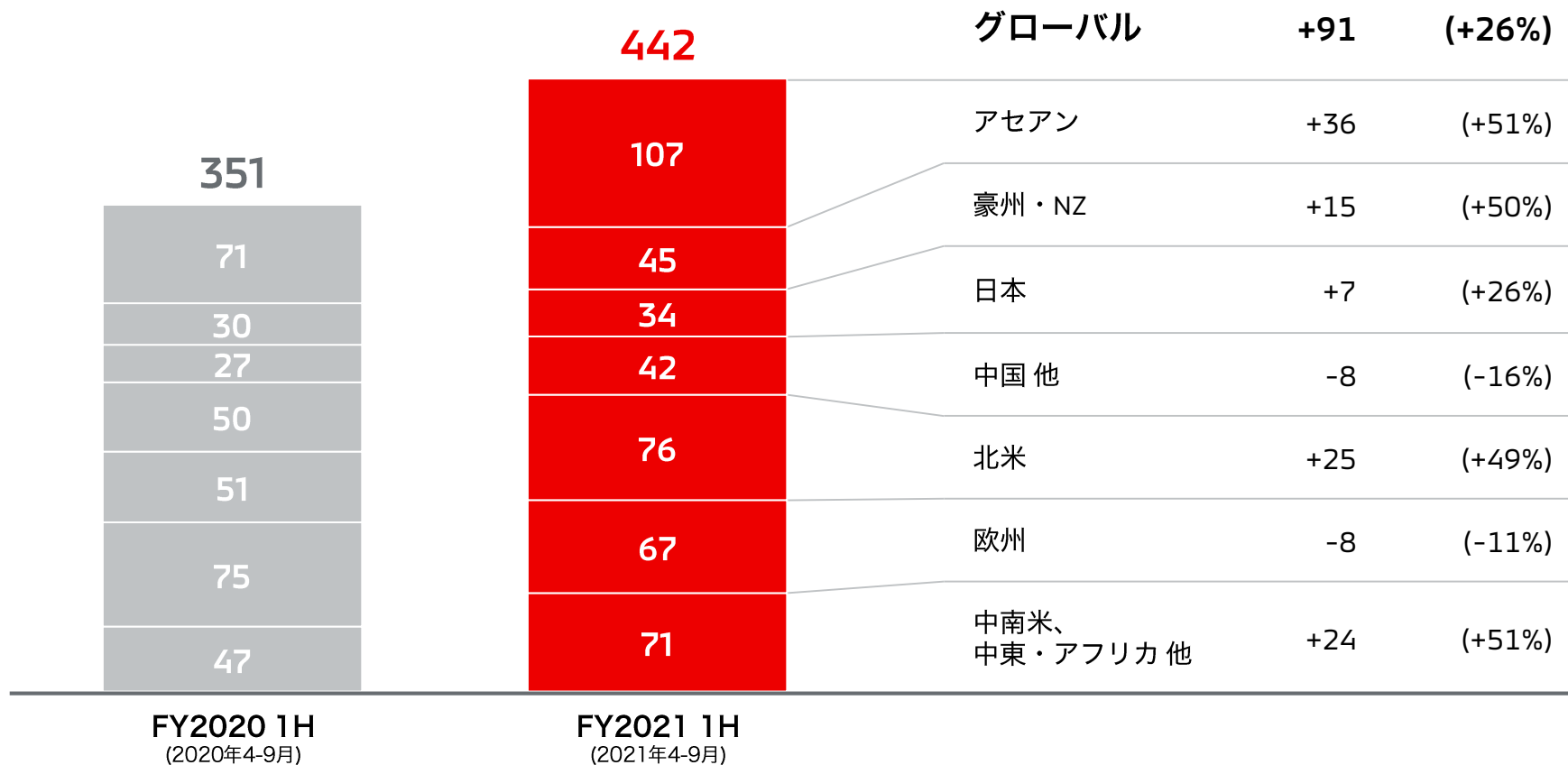


FY2020 2Q (2020年7-9月)	台数	MIX/売価	販売費	コスト 低減等	構造改革	研究開発費	その他	為替	FY2021 2Q (2021年7-9月)
--------------------------	----	--------	-----	------------	------	-------	-----	----	--------------------------

# 2021年度上期 販売台数実績【前年同期比】



小売台数 (千台)



## アセアン

販売台数・マーケットシェア (当社調べ)

	FY2020 1H		FY2021 1H
アセアン	71千台	→	107千台
タイ	24千台 (7.0%)	→	21千台 (6.2%)
フィリピン	14千台 (15.6%)	→	15千台 (11.8%)
ベトナム	12千台 (9.2%)	→	10千台 (9.0%)
インドネシア	16千台 (8.3%)	→	53千台 (12.6%)



- COVID-19感染症が再拡大したタイ、フィリピン、ベトナムで販売に苦戦
- インドネシアでは奢侈税減免延長を享受するエクспанダー、堅調な鉱山・物流需要を背景に引き合いの強いライトオン等、引き続き販売が好調
- ➔ 継続的な商品力強化に加え、デジタルマーケティング強化やローンプログラムを活用した成約率改善等、各国の販売強化策に引き続き取り組む

## 豪州・NZ

販売台数・マーケットシェア (当社調べ)

	FY2020 1H		FY2021 1H
豪州・NZ	30千台	→	45千台
豪州	25千台 (6.3%)	→	34千台 (6.5%)
NZ	5千台 (8.4%)	→	11千台 (13.1%)



- COVID-19感染症の封じ込めにより自動車需要は引き続き好調に推移
- アウトランダー（現行モデル）販売がシェア拡大に貢献 ニュージーランドでは半導体不足の影響を受けない類別の積極的な販売により、マーケットシェアが拡大
- ➔ 新型エクリプス クロスPHEV・新型アウトランダーを中心に、需要に対応したタイムリーな車両供給と販売増を目指す



## 北米

### 販売台数

	FY2020 1H		FY2021 1H
北米	51千台	→	76千台
うち アウトランダー	(13.4千台 旧型)	→	(23.4千台) 旧型+新型



- 米国でのワクチン接種進展や政府交付金支給が行われるなか、総需要は第1四半期に大幅に増加も、第2四半期では供給制約の中で販売減
- 新型アウトランダーが販売を牽引、引き続きインセンティブ抑制と採算の大幅改善に寄与
- ➔ 半導体影響による車両供給不足の継続が見込まれる中、オンライン販売の整備やデジタルマーケティングの強化による新車効果の最大化やアフターセールス収益の拡大に取り組む

## 日本

### 販売台数

	FY2020 1H		FY2021 1H
日本	27千台	→	34千台
軽自動車	18千台	→	20千台
登録車	9千台	→	14千台



- 半導体不足やCOVID-19感染拡大影響による車両供給不足で総需要が低調
- エクリプス クロスPHEVとeKシリーズを軸とするキャンペーンを積極的に打ち出す  
拡販施策によりシェアは回復傾向
- ➔ **カーボンニュートラルへの意識が高まる中、新型アウトランダーPHEVの立ち上がりを成功させるとともに、主要車種の訴求を強化して更なる販売拡大を図る**

1. 2021年度上期 実績

2. 2021年度 業績見通し

3. ビジネスハイライト

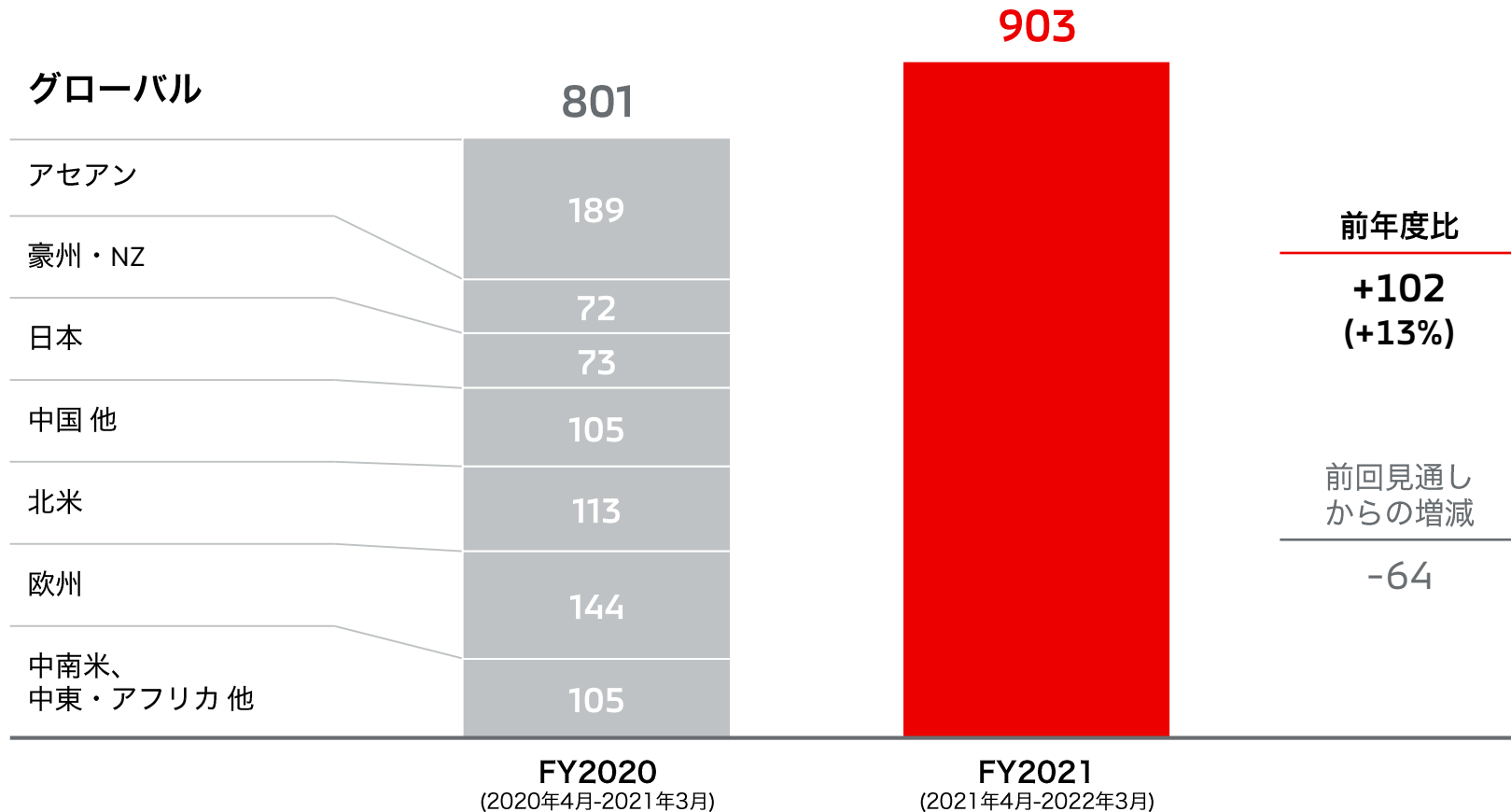
# 2021年度 業績見通し【前年度比】

(億円、千台)	FY2020 (2020年4月-2021年3月)	FY2021 見通し (2021年4月-2022年3月)	増減		前回見通し からの増減
			差異	率	
売上高	14,555	<b>20,100</b>	+5,545	+38%	-700
営業利益 (利益率)	-953	<b>600</b> (3.0%)	+1,553	-	+200
経常利益	-1,052	<b>580</b>	+1,632	-	+220
当期純利益*	-3,123	<b>400</b>	+3,523	-	+250
販売台数 (小売台数)	801	<b>903</b>	+102	+13%	-64

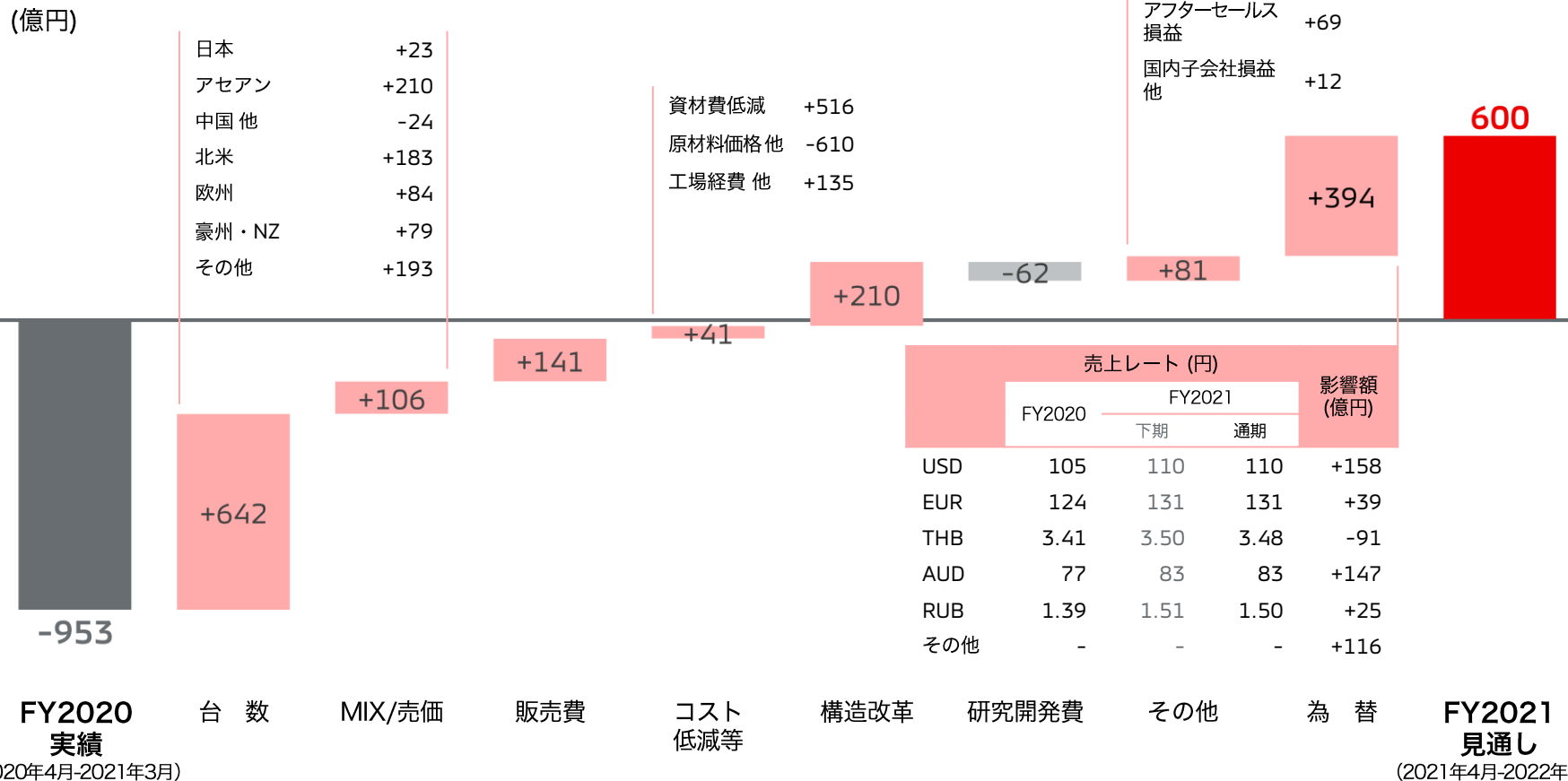
\* 親会社株主に帰属する当期純利益

# 2021年度 販売台数見通し【前年度比】

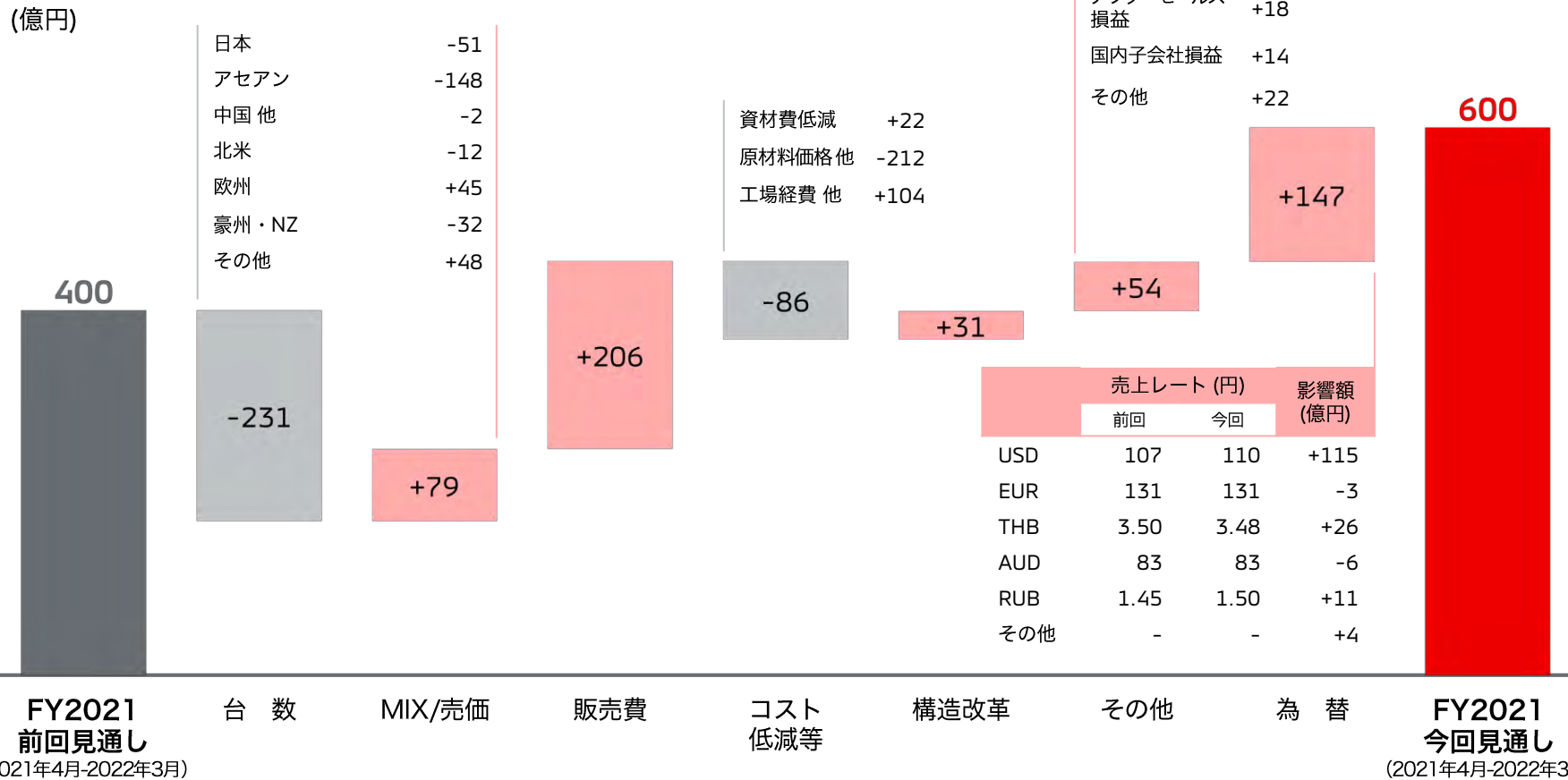
小売台数（千台）



# 2021年度 営業利益見通し変動要因分析【前年度比】



# 2021年度 営業利益見通し変動要因分析【前回公表比】



1. 2021年度上期 実績

2. 2021年度 業績見通し

3. ビジネスハイライト



## 過去最高の米国販売

歴代アウトランダー  
米国月次販売台数  
(ディーラー販売)



FY2002

FY2021

月次販売が過去最高の4千台(9月)  
社内計画を上回る進捗

## 10 BEST INTERIORSに選出



上質な室内空間をWardsAuto  
(米国)が高評価

## 米国メディアからの好感

“劇的に改良されておりショッピング  
リストに絶対に追加すべき” “静粛性  
は高級車に匹敵するレベルであり、  
衝撃的”

——A社

“SUVだらけの駐車場でも際立つ  
スタイリング”

——B社

“欧州のプレミアムブランドを想起  
させる内装質感の高さ”

——C社

磨き上げた商品力に  
想像以上の反響

# 新型アウトランダーPHEV

New

OUTLANDER PHEV

12月 日本発売



新世代PHEVシステム

あらゆる天候や路面状況で  
安全・安心で快適な走り

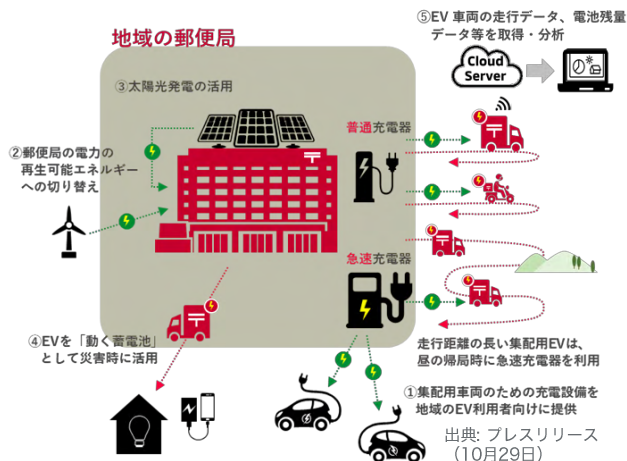
グッドデザイン賞を  
受賞した内外装

プロトタイプ試乗会での評価

“三菱自動車のフラッグシップに相応しい、  
プレミアム電動SUV” “運転していて気持ち良い”  
“新開発プラットフォームで基本性能が底上げ  
され、進化したPHEV/S-AWCで運動性能が  
大幅に向上” “存在感のある力強いスタイリング”  
“これまでの三菱車にない上質感あるプレミアム  
なインテリア”



## 日本郵政グループ・東京電力グループ 実証実験への参画



→郵便局の集配用EV車両の走行データと電池残量の推移などのデータを取得・分析

## ミニキャブMiEV実証実験 /試験導入の進捗



- 約40社と実証実験/試験導入で合意
- EV導入に於けるユーザーの困りごとに対して、過去10年超に亘る販売経験を活かしソリューション提案
- ユーザー側では、オペレーションにおけるEV活用の際の留意点やメリットの理解が深化

カーボンニュートラル化に向けた活動に参画し、ユーザーの困りごとを解決するソリューション・運用サポートサービスを提案するとともに、商品力強化に繋げ、EV普及に貢献



**MITSUBISHI  
MOTORS**

Drive your Ambition

# APPENDIX

---

# 2021年度上期 バランス・シート/フリーキャッシュフロー【前年度末/同期比】



(億円)	FY2020 (2021年3月末)	FY2021 1H (2021年9月末)	増減
資産合計	18,563	17,392	-1,171
うち現金及び預金	4,557	3,723	-834
負債合計	13,310	12,016	-1,294
うち有利子負債	4,833	4,800	-33
純資産合計	5,253	5,376	+123
自己資本 (自己資本比率)	5,079 (27.4%)	5,175 (29.8%)	+96
ネットキャッシュ 【自動車事業及び消去】	2,145	1,405	-740
(億円)	FY2020 1H (2020年4-9月)	FY2021 1H (2021年4-9月)	増減
フリーキャッシュフロー 【自動車事業及び消去】	-2,030	-581	+1,499

# 2021年度上期 設備投資・研究開発費・減価償却費

## 設備投資

205億円  
-20% (YoY)

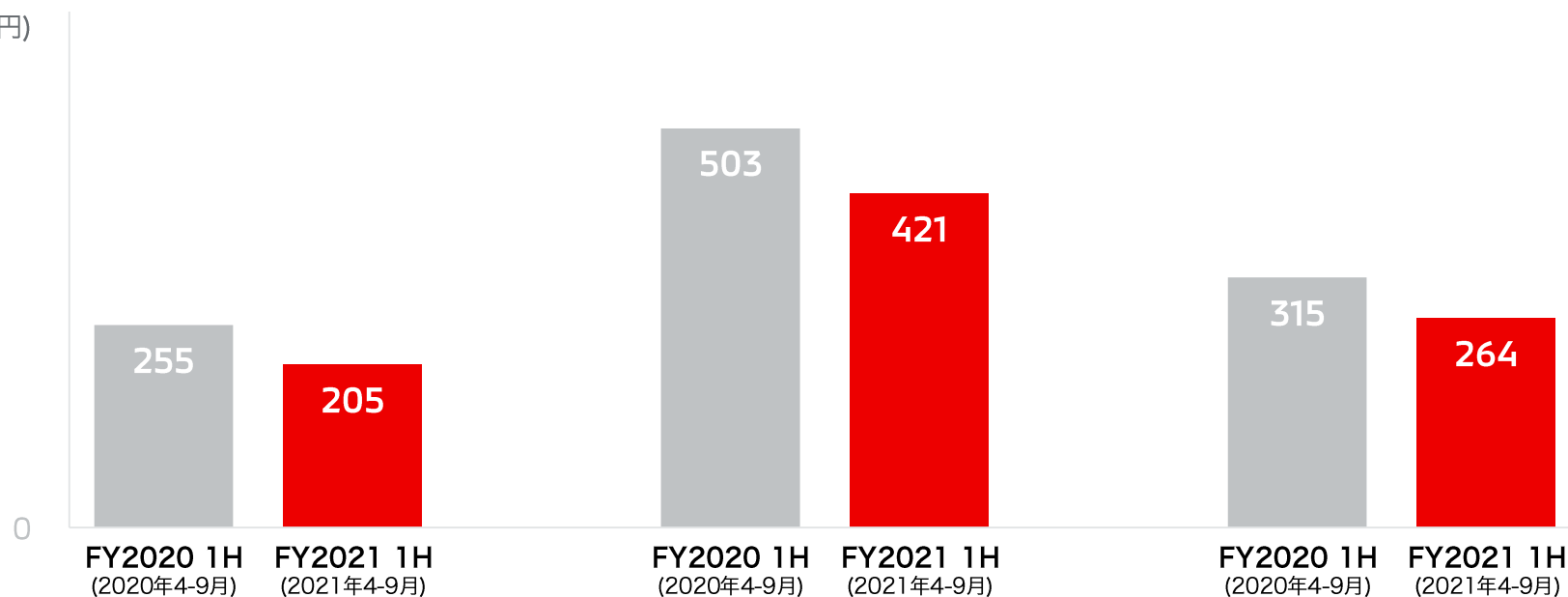
## 研究開発費

421億円  
-16% (YoY)

## 減価償却費

264億円  
-16% (YoY)

(億円)





# 2021年度上期 地域別業績【前年同期比】

(億円)	売上高			営業利益		
	FY2020 1H (2020年4-9月)	FY2021 1H (2021年4-9月)	増減	FY2020 1H (2020年4-9月)	FY2021 1H (2021年4-9月)	増減
合計	5,749	<b>8,906</b>	+3,157	-826	<b>252</b>	+1,078
- 日本	1,798	<b>1,764</b>	-34	-228	<b>-30</b>	+198
- アセアン	1,113	<b>1,942</b>	+829	-29	<b>112</b>	+141
- 中国 他	98	<b>85</b>	-13	-33	<b>17</b>	+50
- 北米	657	<b>1,717</b>	+1,060	-150	<b>73</b>	+223
- 欧州	805	<b>1,205</b>	+400	-155	<b>-5</b>	+150
- 豪州・NZ	684	<b>1,068</b>	+384	-115	<b>77</b>	+192
- その他	594	<b>1,125</b>	+531	-116	<b>8</b>	+124

# 2021年度 売上高見通し【前年度比】

(億円)	FY2020 (2020年4月-2021年3月)	FY2021 見通し (2021年4月-2022年3月)	増減
合計	14,555	<b>20,100</b>	+5,545
- 日本	4,221	<b>4,000</b>	-221
- アセアン	3,177	<b>4,500</b>	+1,323
- 中国 他	192	<b>150</b>	-42
- 北米	1,946	<b>3,800</b>	+1,854
- 欧州	1,833	<b>2,650</b>	+817
- 豪州・NZ	1,733	<b>2,400</b>	+667
- その他	1,453	<b>2,600</b>	+1,147

# 2021年度 設備投資・研究開発費・減価償却費見通し

## 設備投資

850億円  
+11% (YoY)

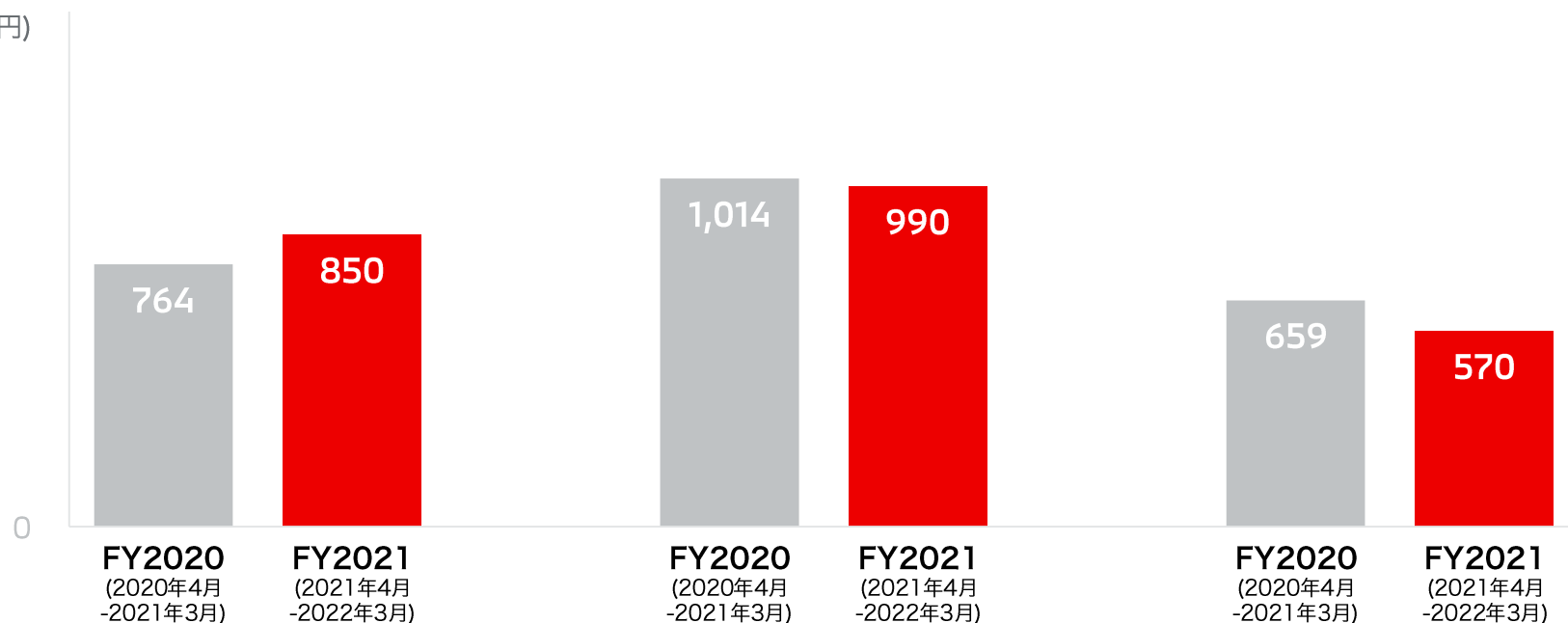
## 研究開発費

990億円  
-2% (YoY)

## 減価償却費

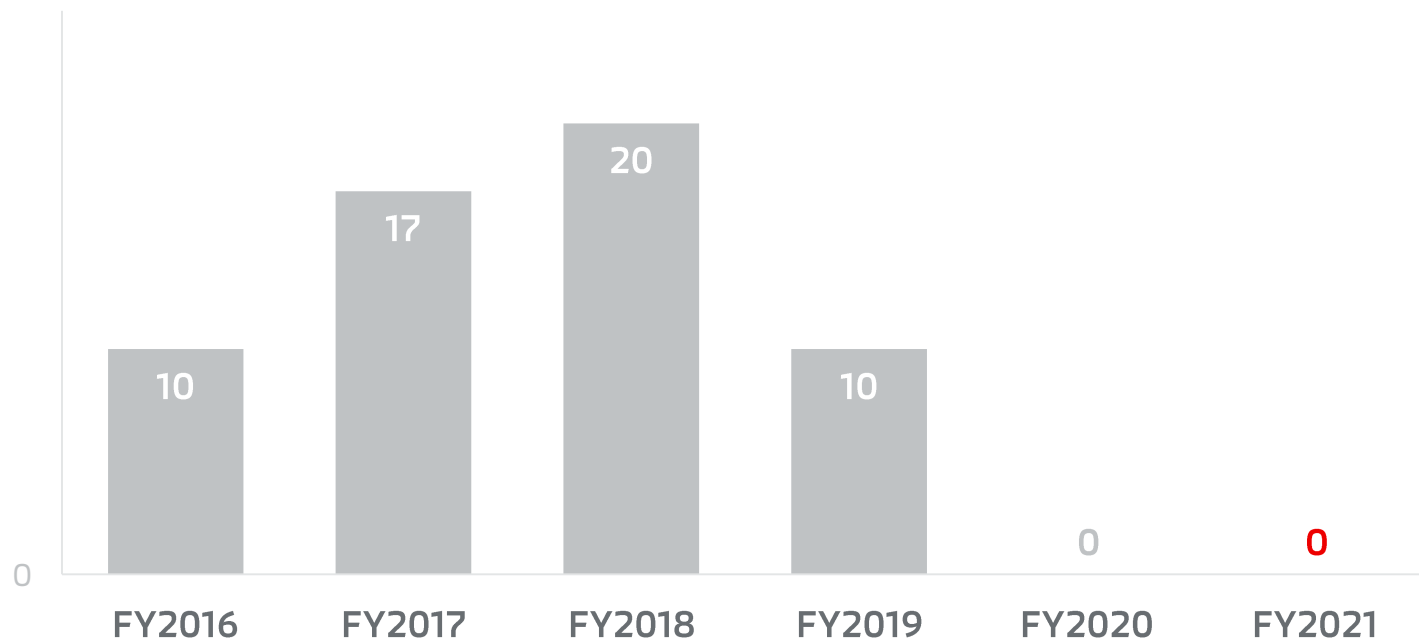
570億円  
-14% (YoY)

(億円)



1株当たり配当金: 0円 (見通し)

(円)



本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでおります。従いまして、今後の当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、金利・為替の変動、関係法令・規則の変更可能性等により、実際の業績がこれらの記述と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご注意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。